※令和４年度以降入学生用

学校番号	410

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	生活文化	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	家庭総合（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

知識と技術の習得のために、体験・実習を取り入れ、生徒の主体的な取り組みを重視します。
実習は苦手でもやる気さえあれば楽しくできるので、何事にも諦めずに取り組むことにより、達成感を味わい、苦手を克服しましょう。

2　学習の到達目標

(1) １・２年次に学習した家庭総合の内容を発展させ、人間の生涯にわたる発達と、生活を主体的に営むために必要な衣食住、保育などについて理解するとともに、それらにかかわる技能を身につける。
(2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことにより課題を解決する力を身につける。どのようにすれば社会性が身に付き、生活環境が整えられるのかを考え、子どもを通して社会への参加を考える。
(3) さまざまな人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したり、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。子どもの発達における大人の関与がより重要になっていることを理解し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と家庭生活に活用する実践的な態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	１・２年次に学習した内容を発展させ、人間の生涯にわたる発達と、生活を主体的に営むために必要な衣食住、保育などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことにより課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	SDGs	SDGs17の目標と家庭科各分野との関係について考える。	a:ＳＤＧｓについて知る b:家庭内での問題点を考える c:グループで問題解決を考える	定期考査	レポートの作成	グループ発表
	食生活	毎日、自分が食べているものについて学び、過不足なく栄養が取れているかを判断する。 バランスのとれた献立を考え、調理実習を行う。 茶道体験実習を行う。	a:栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につける。 b:実際の食生活に生かすことができる。 c:グループで協力して実習を行う。	定期考査・調理実習	レポートの作成	調理実習
2学期	保育	子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。 世界の子どもの未来に向けての課題解決の方法を考える。 保育専門学校との連携により、保育士さんから現状を聞き、実際に行っている遊びなどを教えてもらい、実践する。	a:子どもをとりまく人とのかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。 b: 子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 c:実際の遊びなどを実践し、意欲的に取り組んでいる。	定期考査	レポートの作成	保育体験実習
	衣生活	環境に配慮した衣生活について学び、自分たちができることを考える。リサイクルやリメイクについて考える。 被服実習を行う。	a: 不要となった衣類について、リサイクルに回す、作りかえるなど、実生活において実践することができる。 b: 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 c: 被服実習において、製作活動に意欲的にとりくんでいる。	定期考査・作品提出	レポートの作成	被服実習
3学期	消費生活	生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 一人暮らしをするにあたり、必要な経済について考える。	a: 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。 b: 将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 c: グループで問題解決を考える	定期考査	レポートの作成	個人発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度